



# 埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ：EF Week4You JEF

2022年  
1月



## 2021-22年度 会長テーマ「地域と繋がろう・地域に知られよう」

関東東部部長 大澤和子（所沢）「私の地域から世界に広げよう青少年を支えるワイズの輪・和・ワッ！」

東日本区理事 大久保知宏（宇都宮）「私たちは次の世代のために何ができるか？」

アジア地域会長 Ohno Ben（大野勉・神戸ポート）“Make a difference beyond the 100th” “100年を越えて変革しよう”

国際会長 キム・サンチェ（韓国）“Y's Men with the World” “世界とともにワイズメン”

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 上松寛茂 / 書記 水無瀬隆三 / 会計 小林道明

直前会長 上松寛茂 / ブリテン 水無瀬隆三・浅羽俊一郎 / 担当主事 太田 聡



### 会長挨拶

浅羽俊一郎



明けましておめでとうございます。前期はコロナ禍中でしたが、リアルで例会を持つことができたのはメンバーの皆さんのご協力のお陰です。また嬉しかったのは所沢、川越両クラブの姉兄の励ましに支えられたことでした。県内の

3クラブの交流は楽しいです。そういえば所沢クラブに4人入会されたそうで嬉しいニュースです。



ワイズ 100周年のソングフェスト委員会ではアジア太平洋地域のメンとの月1の会合で親しくなり、大野会長のギター伴奏で歌まで歌っています。

新年の抱負はまだ決めていません。色々やるべきことはありますが、年齢を考慮して10ぐらいに押さえておこうと思います。（例年達成率は5割）会長方針についても何か入れねばならないでしょう。

\* 写真は元旦早朝、さいたま市見沼田んぼに市民田んぼ活動の有志が集まり、初日の出を迎えたところ。向かって右から3人目のマスクの女性は一昨年卓話してくれた藤原梯子代表。日の出そのものは本ページ右上の写真。❖

### 今月の聖句

「2人か3人が私(イエス)の名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」

(マタイによる福音書 18:20)

### 私の心に触れた言葉

浅羽俊一郎

「魂を悩ます感情の中で虚栄心ほど破滅的で、普遍的で、根深いものはありません。そして虚栄心の力を否定するものがあるとすればそれは虚栄心しかない。虚栄心の鎖から自由になることはできません。愛の痛みは時で癒すことができますが、傷ついて痛む虚栄心を癒すことができるのは死のみです。」

(W・サマセット・モーム「アシェンデン」より)

歳を重ねた今、若い頃の自分、組織の中で揉まれていた頃の自分を振り返ると、確かに自分も変わったと思う。人を見る目が少し肥え、自分の欠点も以前より分かる。プライドはまだある。ただ虚栄心とは縁がない。モームの一文は英国の上流社会のことだろうか。日本でも古い体質の人間関係や組織にはありそうだな。教会はどうだろう。YMCA やワイズにいるお陰で「虚栄心」という言葉自体が私には死語だ。

### 1月「寒梅」例会 案内

日時：1月24日(月) 午後2時～4時

会場：「き咲きてらす」（浦和区木崎3-6-6）

開会：点鐘・モットー・ソング・聖句・祈祷  
ゲスト紹介・誕生日/祝い事

協議（前期の振り返り・後期の戦略）

- \* 閉会后懇親会（別会場）予定しています。
- \* コロナ対策は皆さんで心がけてください。
- \* 後片付けを忘れないでください。

## ◆ 12月「クリスマス」特別例会メモ

今まで当クラブは12月は「歌声集会」のクリスマス祝会に合流することで月例会はしてこなかったが、昨年はコロナ禍で歌声集会も例会も無し。今年度も歌声集会こそ休会だが、12月例会は開催しようということになった。それも昼グループと夜グループ(現役組)と一緒に集まれる時に開こうということで、あえて18日(土)午後2時~4時の開催となった。

当日は皆で手分けして例会の準備にあたり、特に三浦メンにはイルミネーションの飾りつけをしてもらった。また水無瀬メンからクリスマス用装飾品を一式寄贈してもらった。

ゲストは歌声集会の常連、藤井誠一・芙美夫婦、元埼玉YMCA副総主事の網中建志(たけし)氏。ビジターは東京ワイズの比奈地康晴会長。(10名)



昼夜すれ違いだったメンバーが久しぶりに一堂に会したこと、感謝すべきクリスマスらしい集会となった。太田主事は仕事で欠席となったが、小峰メンには皆の寄せ書きカードを送ることにした。例会ではそれぞれ自由に語ったが、中でも上松メンが関田寛雄牧師から直筆の手紙を数多く受け取っていることを例に、送り手が直筆でメッセージを書くことで繋がりが生じると説いてくれたがとてもインパクトが大きかった。話し合いの合間にホワイトクリスマスを英語でトライ。伴奏は小林メンのハーモニカ、浅羽メンのピアノ。心温まるクリスマス例会となった。個人的には昨年果たせなかった入会式をしてもらえたことが嬉しかった。(浅羽 記) ❖

## ◆ 1月「よる談会」メモ

1月13日の晩、前回同様新都心駅西口の中華料理店「青蓮」で上松、衣笠、三浦、浅羽の4氏が食べながら、ワイズへの思いや思い出をシェアする楽しいひと時となった。しかし一歩外に出ると耳が痛くなるほどの寒さだった。次回日程は未定。(浅羽 記) ❖

## 今時のユース気質(4)

### ある若者との出会い

浅羽俊一郎

数年前に出会った一人の若者を紹介したいと思えます。神作拳呉(かんさくけんご)氏。12月例会に参加された網中氏が現在務めている高輪中高生プラザ(品川区)のイベントで知り合ったのがそもそものきっかけ

でした。彼は高校生でしたが、その発信力・行動力、何よりもその人柄に惹きつけられました。路上で会う見知らぬ外国人にも躊躇わずに声かけができるというだけでも島国的ではないと思っていたら、そのうちに上海の大学に留学するという話でしたが、コロナ禍で出国の見通しが立たないと聞いていました。



今月晴れて20歳になったというので網中氏と彼の成人式を居酒屋で祝いました。アフリカ式髪型で登場しましたが、意外と似合っていると思いました。(写真)

留学のことを聞くと、昨年9月からオンラインで授業が始まり、世界各地から来ている留学生と画面上で交流しているとのこと。網中氏と私がYMCAやワイズのことを話すのを熱心に聞いてくれました。(メモしていました。)

そこで神作氏に今後時々ブリテンで彼の体験や思いをシェアしてもらえないか頼んでみました。やってみようという返事でした。この20歳のユース地球市民のホンネを時折聞かせてもらえることでしょうか。❖

## ~メソズ・ショート?エッセイズ~ キリスト者としての立位置

衣笠輝夫

ワイズメンズクラブの中であまり議論されることがなく、むしろ議論することを避けているように思えるこのテーマに関して、良い機会が与えられましたので書いてみることにしました。特に「会員増強」を考える時、きちんと共通理解として議論してきたかどうか疑問に思うところです。



国際憲法に「イエス・キリストの教えに基づき」との記載があり、そのガイドライン201に「ワイズメンはイエス・キリストが教えられたことを受け入れることを意味し、又イエス・キリストの教えをワイズメンが実際の行動に移すよう心掛けることを意味する」とあります。これがYMCA同様に、信仰の宣教団体ではなく運動体と呼ばれる所以だと思います。運動体故に宗教の有無、違いに拘わらず誰にでも門戸が開かれているのがワイズメンズクラブだと思います。しかしながら「イエス・キリストの教え」がかえって会員増強を困難にしているとの意見があることも事実です。

「あなたはどのようにクリスチャンになったんですか?」この質問をよく受けます。「はい、もっと自由に私らしくいきたいと思ったからです」と答えることにしています。高校生の時、YMCA野外キャンプに参加し初



めて聖書を知りました。こんな世界があるのかと驚きでした。背伸びをして疲れ果てていた心に、「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」(マタイ 11:28) とのみことばがありました。これを契機として主の導きのもと、日本基督教団早稲田教会で洗礼を受けました。21歳でした。

その YMCA への恩返しとしてワイズメンズクラブに入会しました。ワイズメンの中にはクリスチャンの方も少なからずおられますが、その信仰の証の分ち合いはほとんどないと言っても過言ではありません。いきいきと活動しておられるクリスチャンの方々の姿は素敵ですし、励ましを与えられます。そのことで入会したいと思う方もおられます。キリスト者はその信仰を声に出し、そして行動していくことで光が見えてくるように思います。❖

### 「たった一人の最後の友であれ」

「我が恩師 関田寛雄先生 NO.5」

上松寛茂



1981(昭和56)年9月11日、母校の青学会館で結婚式を挙げた。36歳の時だった。相手は5歳年下の31歳。音楽がライフワーク。音楽家が人生目標だった。2016年4月14日に突然旅立ち、もういない。自宅で入浴中の出来事だった。享年65。思いもよらない事態にその時を思い出すと、今でも体が震えてくる。結婚式の司式は大学時代の恩師である関田寛雄先生。実践神学が専門の神学者であり、牧師でもあった。司式の中で関田先生は、「これから結婚する相手が、誰からも見放され、相手にされなくなっても、たった一人の最後の友であれ」というはなむけの言葉を贈られた。この時の先生の「贈る言葉」は身に染みだ。

幼いころから生涯いじめられっ子の半生だった。チビで小生意気で誰にでもズケズケものを言う小心者、そんなキャラが災いしたのだろう。ラブラブの正常とは言えない夫婦関係の期間もあったが、この言葉は固く守った。最期は穏やかな二人の世界をしみじみとした日々として幸せに過ごせたのは幸いだった。結婚生活十数年で洗礼、キリスト者に。教会の聖歌隊指揮者でもあった。

ある日、自分が所属する教会の会員が、ある人の結婚式に出席したら司式した関田先生がここでも同じ「贈る言葉」を語っていたと知らされた。この「贈る言葉」は、ありのままの自分をかけがえのない人間としてどんな時でも無条件で愛して下さるイエス・キリストの存在そのものを語っているのだと気付いた。「フーテンの寅さん」をこよなく愛する関田先生を通して私の心に触れた言葉はまだいろいろある。「In spite of (にもかかわらず)」「徹頭徹尾」「実存を問う」「相対化思考」—いわゆる「関田語録」である。これらの言葉は傍らの聖書とともに挫折したその時々の

励ましとなった。今年8月で94歳になる先生は、必要としている我々のために神様がご長寿を許して下さっているのだと確信している。❖

## YMCA スペース

### ◆ YMCA 便り

2/1 早天祈祷会 (鈴木善雄氏)

2/23 ピンクシャツデー (いじめをなくそう)

<https://www.ymcajapan.org/campaign/pinkshirtday/>

### ◆ YMCA の小窓から

新しい年を迎え、新たな気持ちでスタートしたところで、早速にまん延防止等重点措置が出され、今週末に予定していたスキーキャンプ(1/22-23)が3月に延期することになりました。

担当の川久保スタッフから延期決定の配信メールの最後には、そこに至る経緯やリーダーとの様子が記載されていました。寄り添い、共に悩み、しかし希望を忘れない姿勢に、YMCA が大切にしているミッションを再度確認しました。(以下、メールの抜粋)

昨夜キャンプのリーダー会を行い、現状について話し合いました。「できるのでやりましょう!」「少しでも安心して来てもらえる時期に」「いつまで宣言に振り回されるのか」等、どの思いにも共感できました。最後には、延期の判断に納得し3月に向け気持ちを切り替え、メンバーへの電話がけを行いました。電話がけでは、残念そうに返事される方、延期になり安心できると感謝する方、少し不満そうに返事をする方さまざまでした。どの意見、反応もしっかりと受け止め、寄り添い、キャンプ当日まで丁寧な対応をしてみたいです。この判断に対し「無理しないでね。3月待つてね。」と声をかけてくださる多くの関係者に支えられている事にも感謝し、リーダーと共に今できる事をしっかりと行い、3月のキャンプを迎えたいと思っております。(太田聡 館長) ❖

### 世界 YMCA 同盟からのお知らせ

・第20回世界YMCA大会 早期登録 受付中!

日程: 2022年7月3日~9日

開催地: デンマーク・オーフス(Aarhus)市

### 最近気になった NEWS

- ✓ オミクロンが爆発的に流行。この原稿を書いている間も各地で感染者激増している。
- ✓ 北東アジアが益々臭くなっている。今年政治が熱くなりそう。
- ✓ 1月15日南太平洋のトンガで大噴火。太平洋沿岸諸国に津波。

お便り



**水無瀬メン：** 小生新春早々にかねてより悪化の兆しがありました、心筋梗塞の施術をいたし獨協病院に1月5日から1月13日迄入院致しておりました。本日やっと我が家に戻りやはり我が家が良いもんだと実感しております。この一年もコロナで何かと、運営企画が難しいと思いますが宜しくお願い致します。

**堀和 (はが) 氏：**私のもう一つの趣味が俳句です。ちょっとご披露します。よろしかったらいかがでしょうか。

- ① 歳男日捲り人生始まりぬ
- ② 静まりて枯れ木に花の雪の夜

**小峰メン：** 1月13日、衣笠・浅羽の二人は小峰ビルにてお嬢様の原田靖子氏と面会を果たし、小峰メンが元気になっていると伺いました。最近ビルには行っていませんがコロナが収束したら是非何かイベントを開催したいです。チャーターメンバーがお元気で何よりです。

### \* 今後の主な行事日程

- ・ 2月26日 20:00~22:00 第4回ナイトフォーラム (ズーム) 卓話者は山田公平メン (宇都宮クラブ) テーマ「Y's×SDGs Youth Action 2022」
- ・ 2月の「よる談会」開催日程・会場調整中。

12月例会報告	会員在籍数	8人
例会出席数	10人	ゲスト・ビジター 4人
よる談会	4人	
会員出席率	75%	ニコニコ 1,800円

編集後記：ここに一文を書き入れる時はホッとします。社会は新年早々コロナ禍に振り回されているが、それが原因か痛ましい事件が報道されます。アメリカでは国内の分断を煽っているコロナの感染者がついに80万人を超えました。一年前に読んだカミュの「ペスト」で分かったつもりでしたが、甘かったです。ワイズは今月から後半戦です。入会式もしてもらい、皆さんと一緒に活動を模索できること、幸せです。

## Men's FOTO Gallery



アジアの未来。アジア太平洋 YMCA 大会の直前に開催されたユース大会、前半は代々木の青少年センター、後半は東山荘。日帰りで横浜 YMCA 富士山キャンプ場へ。バーベキューに満腹。この後大会に合流した。

国際色豊かな俄か作りの聖歌隊。最前列左はアジア太平洋地域会長の大野 勉氏、右から2人目がアジア太平洋同盟のナム・プーウォン総主事。 2019年9月アジア太平洋 YMCA 大会 (東山荘にて)

\* アジア太平洋 YMCA 大会が2019年の8月下旬から9月初めにかけて東山荘で開催されました。若者から年配までともにデボーションを守り、社会見学し、文化交流もしました。分科会で私は宗教間対話グループに参加。仏教、イスラム教、キリスト教の信徒同士が共生活動について話し合いました。YMCA が推進出来る大切な活動だと気づきました。(写真提供 浅羽メン)

